

## 社会心理学【夜】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    |      | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ◎ | 社会の諸問題にかかわる社会心理学の専門知識を備える。          |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | △ | 人間関係に係わる諸課題を社会心理学的に調査・分析できる。        |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | △ | 人間関係に係わる諸課題に対して社会心理学の観点から対応策を提示できる。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 社会心理学                               |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

基本的には講義形式の形態をとりつつも、それほど受講者数が多くない場合には参加型の形態を織り交ぜて進めていく予定である。社会心理学の基礎的な理論、考え方、研究方法などを理解し、受講者が各自の研究テーマとの関連に気づくことが目的である。受講者の発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から議論する。

DPに基づく到達目標

( 高度な専門的知識・技能 )

社会心理学の研究法の主な特徴と社会心理学の複数の研究群の内容を理解している。

( 高い問題解決能力と表現力 )

社会心理学の研究と自分自身の研究テーマとの関連を理解し、説明できる。

( 高い倫理観に基づいた自律的行動力 )

受け身ではなく主体的に学び、議論に参加する。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。

# 社会心理学 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半（7，8回程度）の講義では社会心理学の概論的なテキストを用いて進める。社会心理学の概論的な授業をする場合には，受講者からテキストの各節（参加人数によって，各自の担当ページ数や進度は異なる）の内容を報告してもらい，その内容について補足の講義を行う。その後，皆で議論する。

後半（7，8回程度）は受講者各自の研究テーマの発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義，及び議論をする。受講者が8名以下であれば，1回の授業に1名の発表となる。4名以下であれば発表回数は2回になる。

また，受講者各自の研究テーマの発表を交えながら，様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義，及び議論をする場合もある。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 社会心理学の特徴1【実験】
- 3回 社会心理学の特徴2【統計】
- 4回 動機づけと感情1【外発的動機づけ】
- 5回 動機づけと感情2【内発的動機づけ】
- 6回 人格と個性
- 7回 人格と文化
- 8回 社会的行動1【役割】
- 9回 社会的行動2【集団間関係】
- 10回 社会心理学と認知心理学との関連
- 11回 社会心理学と教育心理学との関連
- 12回 社会心理学と臨床心理学との関連
- 13回 社会心理学と福祉心理学との関連
- 14回 社会心理学と福祉学，教育学，社会学，人類学等との関連
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 % 議論への参加等 ... 50 %によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 生涯学習論【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    |      | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                          |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ○ | 生涯にわたる学習の特性や理論について専門的知識を修得する。 |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | △ | 学習者の課題発見・解決プロセスを理解・分析する。      |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | 学習者の課題発見・解決プロセスを支援・促進する。      |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 生涯学習論                         |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文献や各種調査結果や事例を手がかりにして、生涯学習についての理論的な理解を深める。  
生涯学習や成人教育学の様々な理論について検討することを通して、自己決定型学習や意識変容の学習、またそれへの援助について理解を深める。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

実践を社会教育研究など分析枠組みを用いて捉えることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

実践事例を自分自身の研究テーマに应用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

研究調査や先行研究を研究倫理に基づいて取り扱い、研究としてまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて、適宜、紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○パトリシア・クラプトン『おとなの学びを拓く』鳳書房

○社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所

その他、学会年報や紀要など

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 生涯学習とは何か
- 3 政策動向と論点
- 4 社会教育学としての研究動向
- 5 生涯学習としての研究動向
- 6 国際的な政策・研究動向と論点
- 7 成人教育論の理論展開
- 8 成人教育論の論点
- 9 子どもの教育学と成人教育学
- 10 意識変容の学習とは
- 11 自己決定型学習とは
- 12 学習と学習支援
- 13 学習支援者の専門性と役割
- 14 学習成果の還元、学習社会とは
- 15 まとめ

# 生涯学習論 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と質疑応答…70%、レポート…30% によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、配付資料を検討し、論点を明確化してのぞむ  
事後は、講義内容を踏まえて、関連の論文などを検討する

## 履修上の注意 /Remarks

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

成人の学びや活動の展開について考えていきます。

## キーワード /Keywords

生涯学習、社会教育、地域、成人教育

## 臨床心理学【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                             |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|----------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ◎ | 臨床心理学に関する専門的知識を備える。              |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | ○ | 人間関係に係わる諸問題を臨床心理学の観点から調査・分析できる。  |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | 人間関係に係わる諸問題に臨床心理学の観点から解決策を提案できる。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 臨床心理学                            |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

家族関係に関する心理学の文献講読及び討論を通して、生涯発達における家族の役割と特徴を明確にするとともに、新たな研究主題を見いだすことを目的とする。具体的には、教員が提示する文献を受講者が選択して発表し、全員で討論する形式で実施する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

文献中の心理学的専門用語の意味を理解し活用することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマと関連付けて解釈し自分の見解を述べることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

関連資料を自ら調べて指定文献と関連付けて発表することができる。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で、適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：演習の概要説明、発表の順番決め  
 第2回～第4回 家族とは何か【家族システム論】【ジェノグラム】  
 第5回～第7回 家族の発達【配偶者選択】【夫婦】  
 第8回～第10回 家族と臨床的諸問題【DV】【児童虐待】  
 第11回～第13回 家族と臨床的諸問題(2)【家族療法】【ダブルバインド】  
 第14回～第15回 総括：全体討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表及び討論への参加度(70%)と期末レポート(30%)により、シラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は発表内容に関するレジュメを作成する。それ以外の者は、事前に配布された資料に目を通して自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。

事後学習として、レジュメに目を通しながら理解を深める。

# 臨床心理学 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

発表者は、レジユメを作成すること。また、それ以外の者も事前に資料を配布するので、前もって読み、疑問点や問題点等を明確にしておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 社会福祉援助論【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                      |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | △ | 社会福祉援助の理解に必要な専門的知識を備える。                   |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | △ | 人間の生活困難に関して調査・分析できる。                      |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | 生活困難な状態にある人の人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 社会福祉援助論                                   |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代における社会福祉研究の動向を踏まえ、社会福祉援助の枠組みの制度的変化や意味について吟味し、社会福祉援助に関する方法的検討を中心とした理論的検討を行う。

## 到達目標

## 【高度な専門的知識・技能】

社会福祉援助の理解に必要な専門的知識を備えている。

## 【高い問題解決能力と表現力】

人間の生活困難に関する問題を調査・分析によって解決することができる。

## 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

生活困難な状態にある人の人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を自律的に提示することができる。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業で指定する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適時紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 1～3回   | 社会福祉とは何かに関する文献講読と討論       |
| 4～8回   | 社会福祉の援助論、特に1960～70年代の文献講読 |
| 9～13回  | 社会福祉の援助論、特に1980年代以降の文献講読  |
| 12～15回 | まとめの討論                    |

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告内容を総合して判断するが、特に自らの考えが常に明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は授業で指定する文献・論文を読了し、不明な事柄について整理しておくこと。事後学習は不明な事柄について明確にできる様に指定する文献を講読すること。

# 社会福祉援助論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

文献購読が一定量必要となるので覚悟のこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



## 人間環境学【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                   |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|----------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ◎ | 人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。            |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | ◎ | 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題を調査・分析できる。         |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | △ | 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 人間環境学                                  |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、先史時代、歴史時代を通して変動しており、文明は環境に深く関わりをもっていると考えられています。環境と文明の関連を考えることは、現代の環境問題、ひいては現代文明の行く末を見きわめる手がかりともなります。

例年、様々な環境について取り上げてきましたが、今年度の人間環境学演習では、地震学者と歴史学者が書いた2冊の地震に関する本を用いて、大地震と歴史の関わりについて地震学と歴史学の2つの視点から考えます。

D Pに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

環境と文明の関わりについて専門的に考えることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

環境と文明の関わりに関する諸問題を自ら進んで調べ考察することができる。

## 教科書 /Textbooks

○山岡耕春著「南海トラフ地震」岩波書店、2016年、780円

○保立道久著「歴史の中の大地動乱―奈良・平安の地震と天皇制―」岩波書店、2012年、820円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○鈴木康弘著「原発と活断層」岩波書店、2013年、1430円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

最初の授業で、テキストの分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールで進めます。

テキストを読んで発表・討論することになりますが、必要に応じて関連する情報を提供します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の授業における積極性(30%)と発表内容(70%)によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の担当でない回でもテキストを読んでください。また、新聞やインターネット情報などに目を通し、関連する記事があれば読んでください。授業後は、授業中に作成したノートを整理し、配布された資料などを再度読んで理解した後、これらが今後の資料として使えるよう整理しておきましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

# 人間環境学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 文化社会学【夜】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                          |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ◎ | 文化と人間関係の関連について理解するための専門的知識を習得する。              |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | ◎ | 文化と人間関係の関わりを見定め調査・分析できる。                      |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | △ | 文化と人間関係の関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 文化社会学                                         |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

## 授業の概要

社会学領域において必須とされる社会理論・文化理論・批判理論の基礎理論を中心として、現代社会の様々な事象を批判的に分析する方法について能動的に学び、学位論文にむけた理論的・方法的な能力を養う。

毎回、履修者は指定されたテキストの要旨と論点をまとめたディスカッションペーパーを持参してもらった上で、講義および全体討論を実施する。

## 到達目標

## 《高度な専門的知識・技能》

社会理論の基礎を知る。

## 《高い問題解決能力と表現力》

社会学的思考を自身の研究に活用できる。

## 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

必要な文献や資料の調査方法を構想できる。

## 教科書 /Textbooks

最初の数回は講義資料を担当教員が事前に配布する。その後は履修者の個別の研究計画などを鑑みて妥当なものを決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適時紹介する。

## 文化社会学 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回：オリエンテーションと研究倫理について
- 2 回：社会理論の基礎
- 3 回：社会理論（前編）
- 4 回：社会理論（中編）
- 5 回：社会理論（後編）
- 6 回：文化理論の基礎（前編）
- 7 回：文化理論の基礎（後編）
- 8 回：文化理論（前編）
- 9 回：文化理論（中編）
- 10 回：文化理論（後編）
- 11 回：批判理論の基礎（前編）
- 12 回：批判理論の基礎（後編）
- 13 回：批判理論（前編）
- 14 回：批判理論（中編）
- 15 回：批判理論（後編）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業内評価（50％）とディスカッションペーパーによる全体議論への参加（50％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定する講読資料は英文の場合もあるのでその旨を理解しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 都市社会学【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                                       |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ◎ | 都市社会と人間との関わりについて理解するための理論的な枠組みを学習し、都市の社会的分析に関する専門的知識を習得する。 |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | △ | 都市社会と人間との関わりについて調査・分析する基礎的技能を習得する。                         |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ○ | 都市社会と人間との関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。             |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 都市社会学                                                      |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、都市社会学の基本的な見方・考え方・分析技法を学ぶことを目的とする。  
具体的には、以下の事柄について理解する。  
(1) 産業化と都市化の関係  
(2) 都市社会学の2大潮流としてのシカゴ学派都市社会学と新都市社会学の基本的な考え方  
(3) さまざまな社会現象における「都市的なもの」の意味  
(4) 都市計画の課題と可能性  
(5) 都市における社会現象を把握する技法  
なお、授業は演習形式も交えて行う。

DPに基づく3つの到達目標

<高度な専門知識・技能>

都市社会学に関する概念や理論枠組について理解することができる。

<高い問題解決能力と表現力>

都市の社会問題について自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

<高い倫理観に基づいた自律的行動力>

受け身の学習ではなく進んで調べたりレポートを作成できる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『都市の社会学 - 社会がかたちをあらわすとき』, 町村敬志・西澤晃彦著, 2000, 有斐閣
- 『よくわかる都市社会学』, 中筋直哉・五十嵐泰正編著, 2013, ミネルヴァ書房, ¥3024

## 都市社会学 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 近代都市の誕生
- 第3回 都市へのまなざし
- 第4回 都市的世界の構造
- 第5回 個性化のメカニズム
- 第6回 階級・階層生成のダイナミクス
- 第7回 都市生活の基盤
- 第8回 居住点から広がる社会
- 第9回 郊外という迷宮
- 第10回 政治権力と都市
- 第11回 見える都市、見えない都市
- 第12回 都市の計画と再生
- 第13回 ユートピアとしての都市
- 第14回 都市研究の方法
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ( 30% ) およびレポート ( 70% ) によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト、配付資料等をよく読んでおくこと。( 必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。 )  
文献について報告してもらうので、報告者は、( 1 ) 概要、( 2 ) 内容要約、( 3 ) 論点整理、( 4 ) 議論を記したレジユメを用意すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

コミュニティ、都市問題、シカゴ学派、人間生態学、アーバニズム、ネットワーク分析、新都市社会学、構造分析、集合的消費、社会階層、社会移動、社会的資源、エスノグラフィー、社会地図、参与観察、NPO、町内会、都市レジーム、地域開発、都市計画、再開発、反都市主義

## 教育制度論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | △ | 教育の制度に関する理論的な枠組みを学習、専門的知識を備える。      |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | △ | 教育の制度に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。          |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | 教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 教育制度論                               |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

## 概要

教育の制度についての文献の検討や討論を通して、専門的知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。  
授業前半は教育の制度に関わる共通の文献資料（研究論文）を提示し、参加者による報告発表を起点に討論する。  
後半は教育の制度に関連する文献・資料の収集を実習、収集した中から講読文献を決め、参加者による報告発表を起点に討論する。

## 到達目標

## 【高度な専門的知識・技能】

教育の制度を研究する上で必要な専門的知識を習得する。

## 【高い問題解決能力と表現力】

教育の制度に係わる諸課題を見定め、調査・分析によって解決することができる。

## 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を自律的に提示することができる。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
資料は初回に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、紹介する。

# 教育制度論 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 3回 学校教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 4回 教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 5回 学校教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 6回 学校教育の制度（英語圏以外の欧州）に関する研究論文の検討
- 7回 学校教育の制度（東・東南アジア）に関する研究論文の検討
- 8回 中間まとめ
- 9回 収集した文献・資料の検討1【日本の学校教育】
- 10回 収集した文献・資料の検討2【日本の社会教育】
- 11回 収集した文献・資料の検討3【英語圏の教育制度】
- 12回 収集した文献・資料の検討4【東・東南アジアの教育制度】
- 13回 収集した文献・資料の検討5【学校とコミュニティ】
- 14回 収集した文献・資料の検討6【教育と福祉】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度と発表報告によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

資料は事前によく読んでおくこと。

発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



## 臨床教育学【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                                          |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|---------------------------------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | △ | 子ども・青年の中に生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導の課題について、基本的な理解を持っている。 |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | ◎ | 様々な課題を抱える子ども・青年の抱える課題を分析しつつ、その援助を行っていくための基本的な技能を修得している。       |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | 子ども・青年に対して人権尊重の理念に根ざした尊敬の態度で関わっていく意欲と態度を持っている。                |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 臨床教育学                                                         |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、二年間の修士課程における《高度な専門的知識・技能》《高い問題解決能力と表現力》《高い倫理観に基づいた自律的行動力》の獲得を到達目標として、その習得に向けての具体的な取り組みを行う。

本授業では、①今日の子ども・青年の中で生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題、②乳幼児の愛着形成過程、及び養育者のアタッチメントスタイルが育児に及ぼす影響について、文献講読と事例検討を通じて深めていく。  
本年度は中でも愛着障害の問題を中心に検討していきたいと考えている。

## 到達目標

## 【高度な専門的知識・技能】

子ども・青年の中に生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導の課題について、基本的専門的な知識を習得している。

## 【高い問題解決能力と表現力】

教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示することによって解決することができる。

## 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

子ども・青年に対して高い倫理観と人権尊重の理念に根ざした尊敬の態度で関わっていく自立の行動力を持っている。

## 教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。  
現在のところ、臨床教育学会の学会誌を使用する予定である。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、指示する。

## 臨床教育学【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 事例検討 その1 児童期の不登校生徒の事例
- 3回 事例検討 その2 児童期の発達障害の事例
- 4回 事例検討 その3 児童期の愛着障害の事例
- 5回 事例検討 その4 思春期の不登校生徒の事例
- 6回 事例検討 その5 思春期の不登校生徒の事例
- 7回 講読演習 テキスト 第一章
- 8回 講読演習 テキスト 第二章
- 9回 講読演習 テキスト 第三章
- 10回 講読演習 テキスト 第四章
- 11回 講読演習 テキスト 第五章
- 12回 講読演習 テキスト 第六章
- 13回 実践報告の検討 その1 乳児院の実践
- 14回 実践報告の検討 その2 助産院の実践
- 15回 まとめ
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

文献購読とその意見交流、また、参加者の実践報告の検討などを通して、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講読テキストについては報告でない場合でも必ずしっかり読み込んで、疑問点などを確認しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 福祉コミュニティ論【夜】

担当者名 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                      |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ◎ | 福祉コミュニティの理解に必要な専門的知識を備える。                 |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | △ | 福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題を調査・分析できる。         |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | 福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 福祉コミュニティ論                                 |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

地方創生や地域包括ケアといった流れは、改めて現代社会における地域という存在、特にコミュニティという存在が求められるようになってきている。本科目では、地域にある福祉問題について取り上げながら、具体的な解決方法としてコミュニティワークを活用して、どのように地域にある福祉問題の解決に向けた動きを作っていくのかを考える。

- ◎地域福祉に関する社会福祉学についての専門知識を修得する。
- 地域の福祉問題を分析し、それについて表現し、他者へ伝える能力を修得する。
- アカデミック・ルールに基づき自律的に地域福祉の課題の解決に向けて、考えることができるようになる。

## 到達目標

## 【高度な専門的知識・技能】

福祉コミュニティの理解に必要な専門的知識を習得している。

## 【高い問題解決能力と表現力】

福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題を調査・分析によって解決することができる。

## 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を自律的に提示することができる。

## 教科書 /Textbooks

講義時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

志賀信夫・畠中亨『地方都市から子どもの貧困をなくす』旬報社  
白波瀬達也『貧困と地域 あいりん地区から見る高齢化と孤立死』中央公論新社  
岡村重夫『地域福祉論』光生館  
その他、適宜講義時に提示する。

## 福祉コミュニティ論 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 現代社会における福祉問題【福祉問題】【福祉ニーズ】
- 第 2 回 現代社会における地域福祉【地域福祉】
- 第 3 回 地域における福祉問題①【高齢化】
- 第 4 回 地域における福祉問題②【少子化】
- 第 5 回 地域における福祉問題③【子どもの貧困】
- 第 6 回 地域における福祉問題④【障害児・者】【ノーマライゼーション】
- 第 7 回 地域における福祉問題⑤【精神保健福祉】
- 第 8 回 地域における福祉問題⑥【社会的排除】
- 第 9 回 福祉コミュニティ実践論①【社会的包摂】
- 第 10 回 福祉コミュニティ実践論②【コミュニティワーク】
- 第 11 回 福祉コミュニティ実践論③【ボランティア】
- 第 12 回 福祉コミュニティ実践論④【地域福祉調査】
- 第 13 回 福祉コミュニティ実践論⑤【地域包括ケア】
- 第 14 回 北九州における福祉コミュニティの課題【地域福祉課題】
- 第 15 回 北九州における福祉コミュニティの実践【地域福祉計画】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題提出……50%、期末レポート……50%  
 上記によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定・配布された資料を事前に読むようにしましょう。事後学習としては、その日に学んだことを踏まえて、受講者の周囲にある地域福祉の課題について考えたり、自ら積極的にそのような課題に関わるようにしましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

双方向型の授業を予定しています。積極的な参加を望みます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域にある福祉問題について、コミュニティを形成し、どのようにして解決を図っていくのか、実践的に共に考えましょう。

## キーワード /Keywords

社会福祉学、地域福祉、コミュニティ

## 司法福祉論 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                       |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|--------------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ○ | 非行や犯罪と社会および福祉の関係性に関する専門的知識を備える。            |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | ◎ | 司法福祉に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                  |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | 司法福祉と福祉制度・実務に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 司法福祉論                                      |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

福祉的にかかわりの必要な触法者に対する関わりや制度について理解している。

《高い問題解決能力と表現力》

触法者にかかわる地域課題について、複数の視点から検討し整理することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

犯罪者のない社会に向けて必要な要素を提示することができる。

## 教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ばー総合的支援による人間回復への途」(ミネルヴァ書房 2013年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 犯罪や非行に対するとらえ方
- 第3回 歴史の中の司法福祉
- 第4回～7回 司法福祉の理論と実践
- 第8回～12回 司法福祉に関わる制度と組織
- 第13回～14回 司法福祉の国際比較
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70%および期末レポート30%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。

基本的には講義形式の形態をとるが、受講数が少ない場合は、参加型の形態をとりつつ進めて行く。

## 司法福祉論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## フィールドワーク論【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                                                   |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|--------------------------------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ○ | 諸文化の相対性と、人類の生物学的普遍性に関する最新の研究をリファアーする。                  |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | ◎ | 参与観察とインタビューを通してフィールドワークに基づく長期の質的調査を遂行できる。              |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | フィールドワークでえられた知見を分析し、個別具体的な事例から人間性の諸問題に関する普遍的な議論へと展開する。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | フィールドワーク論                                              |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

人類学や社会学など社会科学の分野で広くおこなわれている質的調査の方法論のひとつであるフィールドワークについて書籍や実地のデータを用いながら学習する。各自の研究テーマを題材にして、フィールドでのデータの収集・考察の手法を学ぶ

## 到達目標

## 【高度な専門的知識・技能】

フィールドワークに必要な専門的知識を持っている。

## 【高い問題解決能力と表現力】

参与観察とインタビューを通してフィールドワークに基づく長期の質的調査によって課題を解決することができる。

## 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

フィールドワークでえられた知見を分析し、個別具体的な事例から人間性の諸問題に関する普遍的な議論へと主体的に展開することができる。

## 教科書 /Textbooks

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

# フィールドワーク論 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認とオリエンテーション
- 第1講 フィールドワークに関する基本的文献
- 第2講 実際のデータの活用のされ方と分析手法
- 第3講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【基礎】
- 第4講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【実践】
- 第5講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【応用】
- 第6講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【基礎】
- 第7講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【実践】
- 第8講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【応用】
- 第9講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【基礎】
- 第10講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【実践】
- 第11講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【応用】
- 第12講 各自の研究に関するディスカッション
- 第13講 各自の研究に関するプレゼンテーション
- 第14講 問題点の抽出
- 第15講 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ディスカッション 70%
- レポート 30%
- 上記の成果によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- あたえられた文献を読み発表の準備をすること。議論の結果を考察にまとめていくこと

## 履修上の注意 /Remarks

- 毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。
- 実際の調査データを収集する

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 最先端の研究にふれましょう

## キーワード /Keywords

- フィールドワーク
- 社会調査



## 臨床社会学【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                           |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|--------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | △ | 臨床現場の諸課題や実践にかかわる専門的知識を備える。     |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。                                             | ○ | 臨床現場の諸課題や実践について社会的に調査・分析できる。   |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | 臨床現場の社会的な考察を踏まえ、実践的な対応策を提示できる。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 臨床社会学                          |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会学の一つのアプローチをなす「臨床社会学」の考え方について学ぶ。「逸脱の社会学」や「社会問題の社会学」では、何がどう議論されてきたのか。こうした論点を整理しながら、社会問題研究の先端に位置づく臨床社会学の可能性について議論する。

DPに基づく3つの到達目標

<高度な専門的知識・技能>

社会病理学や逸脱の社会学の論文等を読むことができる。

<高い問題解決能力と表現力>

自分の研究関心とかわらせながら議論することができる。

<高い倫理観に基づいた自律的行動力>

受け身の学習ではなく進んで臨床社会学の研究を調べることができる。

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの設定
- 2回 臨床社会学の議論の概要
- 3回 研究文献の選定①
- 4回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 5回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 6回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 7回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 8回 中間まとめ
- 9回 研究文献の選定②
- 10回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 11回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 12回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 13回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 15回 全体のまとめ

# 臨床社会学 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション…100%  
シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等をおこなうこと。

## 履修上の注意 /Remarks

発表者はプレゼンテーションの準備を入念に取り組んでください。  
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自で集めて準備してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 環境社会学【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 学位授与方針における能力        |                                                                       |   | 到達目標                            |  |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------|---|---------------------------------|--|
| 知識・理解               | 人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。 | ○ | 人間社会と自然環境・文化的環境に関する専門知識を習得する。   |  |
| 技能                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析ができる。                                            | ○ | 人間社会と自然環境・文化的環境に関する調査・分析ができる。   |  |
| 態度                  | 人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。                                    | ◎ | 人間社会と自然環境・文化的環境に関する問題や対策を提示できる。 |  |
| ※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 |                                                                       |   | 環境社会学                           |  |

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、広義の概念である「やま（山）」、さらに森や杜、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

《高度な専門的知識・技能》

自然と人間の関係について各自の研究領域の知識を広げることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自然環境と人々を調査して実態や課題を明らかにすることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自主的に研究テーマを設定し、客観的で有意義な考察を導くことができる。

## 教科書 /Textbooks

各自の関心テーマにあわせて選択する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心分野に合わせて適宜、紹介する。

## 環境社会学 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 研究分野のガイダンス、文献の選択と進め方の決定
- 2 回 森林と文化に関わる研究史、研究方法と研究倫理
- 3 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 4 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 5 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 6 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 7 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 8 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 9 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 10 回 森林と文化の新しい研究について
- 11 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 12 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 13 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 14 回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 15 回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

討論への参加状況を含めた平常点（50％）と事前調査を含めた発表内容（50％）によりシラバスの到達目標にどの程度到達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

森林（山林）、林業、山村（農村、村）等をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 社会心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| PSY510S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 社会心理学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

基本的には講義形式の形態をとりつつも、それほど受講者数が多い場合には参加型の形態を織り交ぜて進めていく予定である。社会心理学の基礎的な理論、考え方、研究方法などを理解し、受講者が各自の研究テーマとの関連に気づくことが目的である。受講者の発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から議論する。

DPに基づく到達目標

(高度な専門的知識・技能)

社会心理学の研究法の主な特徴と社会心理学の複数の研究群の内容を理解している。

(高い問題解決能力と表現力)

社会心理学の研究と自分自身の研究テーマとの関連を理解し、説明できる。

(高い倫理観に基づいた自律的行動力)

受け身ではなく主体的に学び、議論に参加する。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半(7,8回程度)の講義では社会心理学の概論的なテキストを用いて進める。社会心理学の概論的な授業をする場合には、受講者からテキストの各節(参加人数によって、各自の担当ページ数や進度は異なる)の内容を報告してもらい、その内容について補足の講義を行う。その後、皆で議論する。

後半(7,8回程度)は受講者各自の研究テーマの発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする。受講者が8名以下であれば、1回の授業に1名の発表となる。4名以下であれば発表回数は2回になる。

また、受講者各自の研究テーマの発表を交えながら、様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする場合もある。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 社会心理学の特徴1【実験】
- 3回 社会心理学の特徴2【統計】
- 4回 動機づけと感情1【外発的動機づけ】
- 5回 動機づけと感情2【内発的動機づけ】
- 6回 人格と個性
- 7回 人格と文化
- 8回 社会的行動1【役割】
- 9回 社会的行動2【集団間関係】
- 10回 社会心理学と認知心理学との関連
- 11回 社会心理学と教育心理学との関連
- 12回 社会心理学と臨床心理学との関連
- 13回 社会心理学と福祉心理学との関連
- 14回 社会心理学と福祉学、教育学、社会学、人類学等との関連
- 15回 まとめ

# 社会心理学 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 % 議論への参加等 ... 50 %によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 生涯学習論【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| EDU510S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 生涯学習論       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文献や各種調査結果や事例を手がかりにして、生涯学習についての理論的な理解を深める。  
生涯学習や成人教育学の様々な理論について検討することを通して、自己決定型学習や意識変容の学習、またそれへの援助について理解を深める。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

実践を社会教育研究など分析枠組みを用いて捉えることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

実践事例を自分自身の研究テーマに応用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

研究調査や先行研究を研究倫理に基づいて取り扱い、研究としてまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて、適宜、紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○パトリシア・クラプトン『おとなの学びを拓く』鳳書房

○社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所

その他、学会年報や紀要など

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 生涯学習とは何か
- 3 政策動向と論点
- 4 社会教育学としての研究動向
- 5 生涯学習としての研究動向
- 6 国際的な政策・研究動向と論点
- 7 成人教育論の理論展開
- 8 成人教育論の論点
- 9 子どもの教育学と成人教育学
- 10 意識変容の学習とは
- 11 自己決定型学習とは
- 12 学習と学習支援
- 13 学習支援者の専門性と役割
- 14 学習成果の還元、学習社会とは
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と質疑応答…70%、レポート…30% によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、配付資料を検討し、論点を明確化してのぞむ

事後は、講義内容を踏まえて、関連の論文などを検討する

# 生涯学習論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

成人の学びや活動の展開について考えていきます。

## キーワード /Keywords

生涯学習、社会教育、地域、成人教育



## 臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| PSY530S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 臨床心理学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

家族関係に関する心理学の文献講読及び討論を通して、生涯発達における家族の役割と特徴を明確にするとともに、新たな研究主題を見出すことを目的とする。具体的には、教員が提示する文献を受講者が選択して発表し、全員で討論する形式で実施する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

文献中の心理学的専門用語の意味を理解し活用することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマと関連付けて解釈し自分の見解を述べるすることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

関連資料を自ら調べて指定文献と関連付けて発表することができる。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で、適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：演習の概要説明、発表の順番決め
- 第2回～第4回 家族とは何か【家族システム論】【ジェノグラム】
- 第5回～第7回 家族の発達【配偶者選択】【夫婦】
- 第8回～第10回 家族と臨床的諸問題【DV】【児童虐待】
- 第11回～第13回 家族と臨床的諸問題(2)【家族療法】【ダブルバインド】
- 第14回～第15回 総括：全体討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表及び討論への参加度(70%)と期末レポート(30%)により、シラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は発表内容に関するレジユメを作成する。それ以外の者は、事前に配布された資料に目を通して自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。  
事後学習として、レジユメに目を通しながら理解を深める。

## 履修上の注意 /Remarks

発表者は、レジユメを作成すること。また、それ以外の者も事前に資料を配布するので、前もって読み、疑問点や問題点等を明確にしておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 社会福祉援助論【夜】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| SOW540S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 社会福祉援助論     |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代における社会福祉研究の動向を踏まえ、社会福祉援助の枠組みの制度的変化や意味について吟味し、社会福祉援助に関する方法的検討を中心とした理論的検討を行う。

## 到達目標

## 【高度な専門的知識・技能】

社会福祉援助の理解に必要な専門的知識を備えている。

## 【高い問題解決能力と表現力】

人間の生活困難に関する問題を調査・分析によって解決することができる。

## 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

生活困難な状態にある人の人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を自律的に提示することができる。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業で指定する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適時紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 1～3回   | 社会福祉とは何かに関する文献講読と討論       |
| 4～8回   | 社会福祉の援助論、特に1960～70年代の文献講読 |
| 9～13回  | 社会福祉の援助論、特に1980年代以降の文献講読  |
| 12～15回 | まとめの討論                    |

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告内容を総合して判断するが、特に自らの考えが常に明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は授業で指定する文献・論文を読了し、不明な事柄について整理しておくこと。事後学習は不明な事柄について明確にできる様に指定する文献を講読すること。

## 履修上の注意 /Remarks

文献講読が一定量必要となるので覚悟のこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| PSY520S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 教育心理学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。  
この授業では、まず、教育心理学に関する基礎的な知見（主に学習分野）について、ジグソー学習を用いた学び合いの時間を設ける。次に、さらに、教育心理学に関連する文献をお互いに発表し合い、学びを深める。最後に、教育心理学に関連した様々な教授法・学習法について、実践を通して学び合う。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

- ・ 主要な学習理論等の基礎的な知見を自身の言葉で説明することができる。
- ・ 様々な教授法のメリットとデメリットを説明できる。

《高い問題解決能力と表現力》

- ・ 学習理論の基礎と様々な教授法のメリット・デメリットを理解した上で実践を行うことができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

- ・ 基礎的な知見や文献を自分なりの手法でまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジュメや資料、文献を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業のオリエンテーション、教育心理学とは
- 第2回：基礎的な知見に関するジグソー学習1（学習理論（S-R説））
- 第3回：基礎的な知見に関するジグソー学習2（学習理論（S-S説））
- 第4回：基礎的な知見に関するジグソー学習3（その他の学習理論）
- 第5回：基礎的な知見に関するジグソー学習4（教授法（意味受容学習・プログラム学習））
- 第6回：基礎的な知見に関するジグソー学習5（教授法（発見学習・協同学習））
- 第7回：文献講読・発表1（幼児期の学びに関する文献）
- 第8回：文献講読・発表2（学校での授業研究に関する文献）
- 第9回：文献講読・発表3（生涯学習に関する文献）
- 第10回：文献講読・発表4（正統的周辺参加論に関する文献）
- 第11回：教授法・学習法の実践1（意味受容学習）
- 第12回：教授法・学習法の実践2（プログラム学習）
- 第13回：教授法・学習法の実践3（発見学習）
- 第14回：教授法・学習法の実践4（協同学習）
- 第15回：本授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加・発表等の平常点（50％）と期末レポート（50％）により、シラバスの到達目標にどの程度達することができるかを判断して評価を行う。

# 教育心理学 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。  
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。  
授業への主体的な参加を期待します。

## キーワード /Keywords

学習理論、教授法

## 人間環境学【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| ENV500S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 人間環境学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、先史時代、歴史時代を通して変動しており、文明は環境に深く関わりをもっていると考えられています。環境と文明の関連を考えることは、現代の環境問題、ひいては現代文明の行く末を見きわめる手がかりともなります。  
例年、様々な環境について取り上げてきましたが、今年度の人間環境学演習では、地震学者と歴史学者が書いた2冊の地震に関する本を用いて、大地震と歴史の関わりについて地震学と歴史学の2つの視点から考えます。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

環境と文明の関わりについて専門的に考えることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

環境と文明の関わりに関する諸問題を自ら進んで調べ考察することができる。

## 教科書 /Textbooks

○山岡耕春著「南海トラフ地震」岩波書店、2016年、780円

○保立道久著「歴史の中の大地動乱一奈良・平安の地震と天皇制」岩波書店、2012年、820円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○鈴木康弘著「原発と活断層」岩波書店、2013年、1430円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

最初の授業で、テキストの分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールで進めます。

テキストを読んで発表・討論することになりますが、必要に応じて関連する情報を提供します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の授業における積極性(30%)と発表内容(70%)によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の担当でない回でもテキストを読んでください。また、新聞やインターネット情報などに目を通し、関連する記事があれば読んでください。授業後は、授業中に作成したノートを整理し、配布された資料などを再度読んで理解した後、これらが今後の資料として使えるよう整理しておきましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 文化社会学【夜】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| SOC510S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 文化社会学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

## 授業の概要

社会学領域において必須とされる社会理論・文化理論・批判理論の基礎理論を中心として、現代社会の様々な事象を批判的に分析する方法について能動的に学び、学位論文にむけた理論的・方法論的な能力を養う。

毎回、履修者は指定されたテキストの要旨と論点をまとめたディスカッションペーパーを持参してもらった上で、講義および全体討論を実施する。

## 到達目標

《高度な専門的知識・技能》

社会理論の基礎を知る。

《高い問題解決能力と表現力》

社会学的思考を自身の研究に活用できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

必要な文献や資料の調査方法を構想できる。

## 教科書 /Textbooks

最初の数回は講義資料を担当教員が事前に配布する。その後は履修者の個別の研究計画などを鑑みて妥当なものを決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーションと研究倫理について
- 2回：社会理論の基礎
- 3回：社会理論（前編）
- 4回：社会理論（中編）
- 5回：社会理論（後編）
- 6回：文化理論の基礎（前編）
- 7回：文化理論の基礎（後編）
- 8回：文化理論（前編）
- 9回：文化理論（中編）
- 10回：文化理論（後編）
- 11回：批判理論の基礎（前編）
- 12回：批判理論の基礎（後編）
- 13回：批判理論（前編）
- 14回：批判理論（中編）
- 15回：批判理論（後編）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業内評価（50％）とディスカッションペーパーによる全体議論への参加（50％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

# 文化社会学 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定する講読資料は英文の場合もあるのでその旨を理解しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 都市社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

| 履修年次<br>/Year                      | 単位<br>/Credits | 2単位  | 学期<br>/Semester |      | 1学期  | 授業形態<br>/Class Format |      | 講義   |      | クラス<br>/Class |      |      |      |
|------------------------------------|----------------|------|-----------------|------|------|-----------------------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance |                | 2009 | 2010            | 2011 | 2012 | 2013                  | 2014 | 2015 | 2016 | 2017          | 2018 | 2019 | 2020 |
|                                    |                |      |                 |      |      |                       |      |      |      |               |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| SOC511S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 都市社会学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、都市社会学の基本的な見方・考え方・分析技法を学ぶことを目的とする。  
具体的には、以下の事柄について理解する。  
(1) 産業化と都市化の関係  
(2) 都市社会学の2大潮流としてのシカゴ学派都市社会学と新都市社会学の基本的な考え方  
(3) さまざまな社会現象における「都市的なもの」の意味  
(4) 都市計画の課題と可能性  
(5) 都市における社会現象を把握する技法  
なお、授業は演習形式も交えて行う。

DPに基づく3つの到達目標

<高度な専門知識・技能>

都市社会学に関する概念や理論枠組について理解することができる。

<高い問題解決能力と表現力>

都市の社会問題について自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

<高い倫理観に基づいた自律的行動力>

受け身の学習ではなく進んで調べたりレポートを作成できる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『都市の社会学 - 社会がかたちをあらわすとき』, 町村敬志・西澤晃彦著, 2000, 有斐閣
- 『よくわかる都市社会学』, 中筋直哉・五十嵐泰正編著, 2013, ミネルヴァ書房, ¥3024

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 近代都市の誕生
- 第3回 都市へのまなざし
- 第4回 都市的世界の構造
- 第5回 個性化のメカニズム
- 第6回 階級・階層生成のダイナミクス
- 第7回 都市生活の基盤
- 第8回 居住点から広がる社会
- 第9回 郊外という迷宮
- 第10回 政治権力と都市
- 第11回 見える都市、見えない都市
- 第12回 都市の計画と再生
- 第13回 ユートピアとしての都市
- 第14回 都市研究の方法
- 第15回 まとめ



# 都市社会学【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（30％）およびレポート（70％）によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト、配付資料等をよく読んでおくこと。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）  
文献について報告してもらうので、報告者は、（1）概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを用意すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

コミュニティ、都市問題、シカゴ学派、人間生態学、アーバニズム、ネットワーク分析、新都市社会学、構造分析、集合的消費、社会階層、社会移動、社会的資源、エスノグラフィー、社会地図、参与観察、NPO、町内会、都市レジーム、地域開発、都市計画、再開発、反都市主義

## 教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| EDU520S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 教育制度論       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

## 概要

教育の制度についての文献の検討や討論を通して、専門的知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。  
授業前半は教育の制度に関わる共通の文献資料（研究論文）を提示し、参加者による報告発表を起点に討論する。  
後半は教育の制度に関連する文献・資料の収集を実習、収集した中から講読文献を決め、参加者による報告発表を起点に討論する。

## 到達目標

## 【高度な専門的知識・技能】

教育の制度を研究する上で必要な専門的知識を習得する。

## 【高い問題解決能力と表現力】

教育の制度に係わる諸課題を見定め、調査・分析によって解決することができる。

## 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を自律的に提示することができる。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
資料は初回に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 3回 学校教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 4回 教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 5回 学校教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 6回 学校教育の制度（英語圏以外の欧州）に関する研究論文の検討
- 7回 学校教育の制度（東・東南アジア）に関する研究論文の検討
- 8回 中間まとめ
- 9回 収集した文献・資料の検討1【日本の学校教育】
- 10回 収集した文献・資料の検討2【日本の社会教育】
- 11回 収集した文献・資料の検討3【英語圏の教育制度】
- 12回 収集した文献・資料の検討4【東・東南アジアの教育制度】
- 13回 収集した文献・資料の検討5【学校とコミュニティ】
- 14回 収集した文献・資料の検討6【教育と福祉】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度と発表報告によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

# 教育制度論 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

資料は事前によく読んでおくこと。

発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジユメ等、プレゼン資料を準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 臨床教育学【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| SOC512S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 臨床教育学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、二年間の修士課程における《高度な専門的知識・技能》《高い問題解決能力と表現力》《高い倫理観に基づいた自律的行動力》の獲得を到達目標として、その習得に向けての具体的な取り組みを行う。

本授業では、①今日子ども・青年の中で生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題、②乳幼児の愛着形成過程、及び養育者のアタッチメントスタイルが育児に及ぼす影響について、文献講読と事例検討を通じて深めていく。

本年度は中でも愛着障害の問題を中心に検討していきたいと考えている。

## 到達目標

## 【高度な専門的知識・技能】

子ども・青年の中に生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導の課題について、基本的専門的な知識を習得している。

## 【高い問題解決能力と表現力】

教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示することによって解決することができる。

## 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

子ども・青年に対して高い倫理観と人権尊重の理念に根ざした尊敬の態度で関わっていく自立の行動力を持っている。

## 教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。  
現在のところ、臨床教育学会の学会誌を使用する予定である。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 事例検討 その1 児童期の不登校生徒の事例
- 3回 事例検討 その2 児童期の発達障害の事例
- 4回 事例検討 その3 児童期の愛着障害の事例
- 5回 事例検討 その4 思春期の不登校生徒の事例
- 6回 事例検討 その5 思春期の不登校生徒の事例
- 7回 講読演習 テキスト 第一章
- 8回 講読演習 テキスト 第二章
- 9回 講読演習 テキスト 第三章
- 10回 講読演習 テキスト 第四章
- 11回 講読演習 テキスト 第五章
- 12回 講読演習 テキスト 第六章
- 13回 実践報告の検討 その1 乳児院の実践
- 14回 実践報告の検討 その2 助産院の実践
- 15回 まとめ
- 15回 全体のまとめ

# 臨床教育学【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

文献購読とその意見交流、また、参加者の実践報告の検討などを通して、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講読テキストについては報告でない場合でも必ずしっかり読み込んで、疑問点などを確認しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 福祉コミュニティ論 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| SOW510S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 福祉コミュニティ論   |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

地方創生や地域包括ケアといった流れは、改めて現代社会における地域という存在、特にコミュニティという存在が求められるようになってきている。本科目では、地域にある福祉問題について取り上げながら、具体的な解決方法としてコミュニティワークを活用して、どのように地域にある福祉問題の解決に向けた動きを作っていくのかを考える。

- ◎地域福祉に関する社会福祉学についての専門知識を修得する。
- 地域の福祉問題を分析し、それについて表現し、他者へ伝える能力を修得する。
- アカデミック・ルールに基づき自律的に地域福祉の課題の解決に向けて、考えることができるようになる。

## 到達目標

【高度な専門的知識・技能】  
福祉コミュニティの理解に必要な専門的知識を習得している。

【高い問題解決能力と表現力】  
福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題を調査・分析によって解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】  
福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を自律的に提示することができる。

## 教科書 /Textbooks

講義時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

志賀信夫・畠中亨『地方都市から子どもの貧困をなくす』旬報社  
白波瀬達也『貧困と地域 あいりん地区から見る高齢化と孤立死』中央公論新社  
岡村重夫『地域福祉論』光生館  
その他、適宜講義時に提示する。

## 福祉コミュニティ論 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 現代社会における福祉問題【福祉問題】【福祉ニーズ】
- 第 2 回 現代社会における地域福祉【地域福祉】
- 第 3 回 地域における福祉問題①【高齢化】
- 第 4 回 地域における福祉問題②【少子化】
- 第 5 回 地域における福祉問題③【子どもの貧困】
- 第 6 回 地域における福祉問題④【障害児・者】【ノーマライゼーション】
- 第 7 回 地域における福祉問題⑤【精神保健福祉】
- 第 8 回 地域における福祉問題⑥【社会的排除】
- 第 9 回 福祉コミュニティ実践論①【社会的包摂】
- 第 10 回 福祉コミュニティ実践論②【コミュニティワーク】
- 第 11 回 福祉コミュニティ実践論③【ボランティア】
- 第 12 回 福祉コミュニティ実践論④【地域福祉調査】
- 第 13 回 福祉コミュニティ実践論⑤【地域包括ケア】
- 第 14 回 北九州における福祉コミュニティの課題【地域福祉課題】
- 第 15 回 北九州における福祉コミュニティの実践【地域福祉計画】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題提出……50%、期末レポート……50%  
 上記によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定・配布された資料を事前に読むようにしましょう。事後学習としては、その日に学んだことを踏まえて、受講者の周囲にある地域福祉の課題について考えたり、自ら積極的にそのような課題に関わるようにしましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

双方向型の授業を予定しています。積極的な参加を望みます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域にある福祉問題について、コミュニティを形成し、どのようにして解決を図っていくのか、実践的に共に考えましょう。

## キーワード /Keywords

社会福祉学、地域福祉、コミュニティ

## 司法福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| SOW541S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 司法福祉論       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

福祉的にかかわりの必要な触法者に対する関わりや制度について理解している。

《高い問題解決能力と表現力》

触法者にかかわる地域課題について、複数の視点から検討し整理することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

犯罪者のない社会に向けて必要な要素を提示することができる。

## 教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ぶー総合的支援による人間回復への途」( ミネルヴァ書房 2013年 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 犯罪や非行に対するとらえ方
- 第3回 歴史の中の司法福祉
- 第4回～7回 司法福祉の理論と実践
- 第8回～12回 司法福祉に関わる制度と組織
- 第13回～14回 司法福祉の国際比較
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70%および期末レポート30%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。

基本的には講義形式の形態をとるが、受講数が少ない場合は、参加型の形態をとりつつ進めて行く。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# 司法福祉論 【夜】

キーワード /Keywords

## フィールドワーク論 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

| 履修年次<br>/Year                      | 単位<br>/Credits | 2単位  | 学期<br>/Semester |      | 2学期  | 授業形態<br>/Class Format |      | 演習   |      | クラス<br>/Class |      |      |      |
|------------------------------------|----------------|------|-----------------|------|------|-----------------------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance |                | 2009 | 2010            | 2011 | 2012 | 2013                  | 2014 | 2015 | 2016 | 2017          | 2018 | 2019 | 2020 |
|                                    |                |      |                 |      |      |                       |      |      |      |               |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 科目記号<br>DP | 高度な専門的知識・技能                                                                                                    | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------------------|
| ANT510S    | ◎                                                                                                              | ○            | ○                |
| 科目名        | フィールドワーク論<br>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連<br>※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。 |              |                  |

## 授業の概要 /Course Description

人類学や社会学など社会科学の分野で広くおこなわれている質的調査の方法論のひとつであるフィールドワークについて書籍や実地のデータを用いながら学習する。各自の研究テーマを題材にして、フィールドでのデータの収集・考察の手法を学ぶ

## 到達目標

## 【高度な専門的知識・技能】

フィールドワークに必要な専門的知識を持っている。

## 【高い問題解決能力と表現力】

参与観察とインタビューを通してフィールドワークに基づく長期の質的調査によって課題を解決することができる。

## 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

フィールドワークでえられた知見を分析し、個別具体的な事例から人間性の諸問題に関する普遍的な議論へと主体的に展開することができる。

## 教科書 /Textbooks

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認とオリエンテーション
- 第1講 フィールドワークに関する基本的文献
- 第2講 実際のデータの活用の方と分析手法
- 第3講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【基礎】
- 第4講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【実践】
- 第5講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【応用】
- 第6講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【基礎】
- 第7講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【実践】
- 第8講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【応用】
- 第9講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【基礎】
- 第10講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【実践】
- 第11講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【応用】
- 第12講 各自の研究に関するディスカッション
- 第13講 各自の研究に関するプレゼンテーション
- 第14講 問題点の抽出
- 第15講 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション 70%

レポート 30%

上記の成果によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

# フィールドワーク論 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

あたえられた文献を読み発表の準備をすること。議論の結果を考察にまとめていくこと

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。  
実際の調査データを収集する

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最先端の研究にふれましょう

## キーワード /Keywords

フィールドワーク  
社会調査

## 臨床社会学【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| 科目記号<br>DP | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| SOC513S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 臨床社会学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会学の一つのアプローチをなす「臨床社会学」の考え方について学ぶ。「逸脱の社会学」や「社会問題の社会学」では、何がどう議論されてきたのか。こうした論点を整理しながら、社会問題研究の先端に位置づく臨床社会学の可能性について議論する。

DPに基づく3つの到達目標

<高度な専門的知識・技能>

社会病理学や逸脱の社会学の論文等を読むことができる。

<高い問題解決能力と表現力>

自分の研究関心とかわらせながら議論することができる。

<高い倫理観に基づいた自律的行動力>

受け身の学習ではなく進んで臨床社会学の研究を調べることができる。

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの設定
- 2回 臨床社会学の議論の概要
- 3回 研究文献の選定①
- 4回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 5回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 6回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 7回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 8回 中間まとめ
- 9回 研究文献の選定②
- 10回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 11回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 12回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 13回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション・・・100%

シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等をおこなうこと。

# 臨床社会学 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

発表者はプレゼンテーションの準備を入念に取り組んでください。  
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自で集めて準備してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 環境社会学【夜】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| ENV550S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 環境社会学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、広義の概念である「やま（山）」、さらに森や杜、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

## 《高度な専門的知識・技能》

自然と人間の関係について各自の研究領域の知識を広げることができる。

## 《高い問題解決能力と表現力》

自然環境と人々を調査して実態や課題を明らかにすることができる。

## 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自主的に研究テーマを設定し、客観的で有意義な考察を導くことができる。

## 教科書 /Textbooks

各自の関心テーマにあわせて選択する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心分野に合わせて適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 研究分野のガイダンス、文献の選択と進め方の決定
- 2 回 森林と文化に関わる研究史、研究方法と研究倫理
- 3 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 4 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 5 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 6 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 7 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 8 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 9 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 10 回 森林と文化の新しい研究について
- 11 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 12 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 13 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 14 回 文献講読 ( 文献の読み取りと討論 )
- 15 回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

討論への参加状況を含めた平常点 ( 50% ) と事前調査を含めた発表内容 ( 50% ) によりシラバスの到達目標にどの程度到達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

森林 ( 山林 )、林業、山村 ( 農村、村 ) 等をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくこと。

# 環境社会学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 認知心理学【夜】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

| 対象入学年度<br>/Year of School Entrance | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ○    |

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

| DP<br>科目記号 | 高度な専門的知識・技能 | 高い問題解決能力と表現力 | 高い倫理観に基づいた自律的行動力 |
|------------|-------------|--------------|------------------|
| PSY540S    | ◎           | ○            | ○                |
| 科目名        | 認知心理学       |              |                  |

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
※地域コミュニティ専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

認知とは、外界の情報を取り入れたり、取り入れた情報を保存したり、保存した情報を元に新たな知識を構成したり、新たな外界の問題を解決するといった人の行っている情報の処理全般を意味する。人がどのように認知処理を行い、さまざまな経験によってどのように認知処理が変容するのかについて考えていくことは、全ての研究テーマを精選していくために必要な作業である。ここでは各受講生の修士論文のテーマに合わせ、査読された学術論文を発表し、それを全員で議論することで、各人の修士論文をより質の高いものにすることを旨とする。

## 《高度な専門的知識・技能》

人間の情報処理過程についての専門的な知識を総合的に身につけている。

## 《高い問題解決能力と表現力》

文献を批判的に読んで課題を発見し、専門的見地から自分の意見を論理的に表現することができる。

## 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

研究倫理を理解し、認知心理学に関連する課題について主体的に探究することができる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

授業中にいくつかの学術雑誌を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論①
- 第3回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論②
- 第4回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論③
- 第5回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論④
- 第6回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑤
- 第7回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑥
- 第8回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑦
- 第9回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑧
- 第10回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑨
- 第11回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑩
- 第12回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑪
- 第13回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑫
- 第14回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑬
- 第15回 各自で見つけた研究論文(査読付)の紹介と評論⑭

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表の完成度(50%)と議論への参加度(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：発表担当者は文献を選定して熟読し、発表の準備をする。

事後学習：ディスカッションの内容を踏まえて関連事項を調べ、理解を深める。



## 認知心理学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords